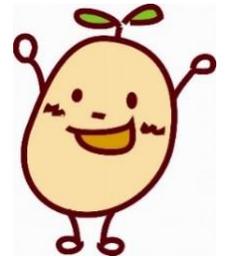


# 3年総合的な学習の時間「いわみ」 大豆はかせになろう！

2023年6月21日(水)  
大豆の植え替え



6月15日に種をまいてから1週間がたちました。子どもたちが、毎日水をやり、「早く芽を出してね。」と声かけを続け、大豆はかわいい芽を出しすくすくと育っています。いよいよ広い畑に植え替えをする日がやってきました。今日も、種まきをした日と同じような、少し曇りの暑すぎない植え替え日和でした。



子どもたちは、6人で協力して、1畝につき30ポットの苗を植えました。①移植ごとの長さを利用して、30センチ間隔に苗のポットを置く。②1人5ポット植えながら、空になったビニルポットを重ねる。③しゃがんで座り、「1,2,3,4,5」と数えながら、苗の根元にペットボトルに入れた水をたっぷりあげる。④東側の畝に、3粒ずつ「じかまき」をする。⑤しゃがんで座り、「1,2,3,4,5」と数えながら、根元に水をたっぷりあげる。みのり会さんに教えていただき、スムーズに植え替えをすることができました。

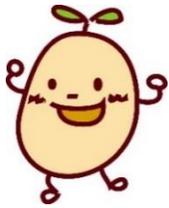


大豆は、西側より「苗」を植え、東側より「じかまき」をしました。じかまきをする際は、鳩に食べられたり、腐ったりしないように、人体に影響がない薬を大豆にまぶしました。子どもたちは、赤くなった大豆に興味津々で、「種をまく前から、おいしく育てるための工夫があるのだなあ。」と感心していました。

みのり会さんが、植え替えまでに畑を整えておいてくださったので、とてもスムーズに作業ができました。感謝の思いでいっぱいです。今後とも、お力添えをよろしくお願いいたします。

明日から、水やり、声かけ、草引き、観察等のお世話を続け、大豆を育てながら、子どもたちは多くのことを学んでいきます。大豆と共に大きく成長していく子どもたちの姿が楽しみです。

**みのり会のみなさま、ありがとうございました。**



# 3年総合的な学習の時間「いわみ」

## 大豆畑の整備の様子



<4月17日>

大豆畑の草引き。



<6月15日・16日>

みのり会の方が、肥料をまき、たがやし  
ながら畝(うね)を作ってくださいました。



<6月19日>

みのり会の方が、苗を植えやすいよう  
に、たがやししながら、畝の中央にくぼみ  
を作ってくださいました。



大豆の苗を畑に移植する  
児童たち—太子町立石海小

同校では、16年前から3  
年生が総合学習「いわみ」  
の授業で大豆栽培に取り組  
んでいる。活動には住民有  
志でつくるボランティア団  
体「みのり会」が協力して  
畑などを提供。栽培指導に  
も当たっている。

太子町立石海小学校の児童たちが21日、学校近くの  
畑で大豆の植え付けを体験した。子供たちは地元住  
民らの指導を受け、ポットで育てた苗の移植や種まきな  
どの作業に当たった。

# 立派な大豆に育って

## 太子町 小学生が植え付け体験

★大豆の植え替えの様子を新聞で紹介されました。

〈『産経新聞』2023年6月22日〉



<6月20日 朝8時の大豆の様子>

6月15日に種をまいた大豆は、3日目には芽を出し、日に日に成長しています。ポット内で発芽した大豆を、広い畑に植えました。

今年度は15日に種まきを  
して、ポットで苗を育成。  
この日は4〜5センチ伸びた  
苗を児童らがポットから畑  
に移植し、土をかぶせたり  
水をやりたりした。松本依  
知君(9)は「まいた種がこ  
んなに伸びてびっくり。ど  
んどん大きくなってほし  
い」と話していた。  
また、畑の一角では子供  
たちが種の直まきも体験。  
これから畑の草取りや水や  
りなどを続け、10月下旬、  
11月上旬に収穫の見込み。  
この大豆を使って、みそや  
豆腐作りをする予定。  
「教室ではできない経験  
をしてほしくて協力してい  
る。子供たちが楽しみにし  
てくれていてうれしい」と  
松浦秀樹会長。久保田昌之  
校長は「子供たちのふるさ  
と意識づくりにつながって  
いて、本当にありがたい」  
とみのり会に感謝した。